

教育研究創発国際研修における学術活動報告書

令和 6年 10月 31日

氏名 太齋 慧

所属 臨床心理学 コース

指導教員名 能智正博

1. 研究課題 スティグマを生きる成人期ゲイ男性のライフストーリーと対話—支援的な関わりに向けて—
2. 報告する学術活動の実施期間 令和6年9月19日 ~ 令和6年9月20日
3. 日本学術振興会特別研究員（DC）の現在の採用状況 DC1 DC2 採用無し
4. 学術活動
 - 国外 国内
 - ①英語論文公表
 - ②研究科教員の研究プロジェクト参加
 - ③フィールドワーク
 - ④国際会議（研究発表 運営補助 出席のみ）
 - ⑤研究会（研究発表 運営補助 出席のみ）
 - ⑥研究指導委託
 - ⑦留学
 - ⑧国際研修
 - ⑨国際インターンシップ
 - ⑩その他（具体的に： _____)

5. 学術活動実施の概要

※上記4で選択した学術活動について具体的に記載してください。括弧内の概要を必ず記載してください。

- ① 英語論文公表
(著者、発表論文名、掲載誌名等、発表年月巻号、発表年月日等、論文内容の概要)
- ② 研究科教員の研究プロジェクト参加
(プロジェクト名、代表研究者名、自身の具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度、プロジェクトの概要)
- ③ フィールドワーク
(調査先機関等、国名・都市名、具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度、調査先の概要)
- ④ 国際会議
(研究発表・運営補助・出席のみ の別、学会・会議名、国名・都市名、発表題目名、発表形式(口頭・ポスター等)、発表年月日、発表内容等の概要)
- ⑤ 研究会
(研究発表・運営補助・出席のみ の別、研究会名、国名・都市名、発表題目名、発表形式(口頭・ポスター等)、発表年月日、発表内容等の概要)
- ⑥ 研究指導委託
(派遣先機関、国名・都市名、受入身分及び研究、研究テーマと受入教員、受入期間(年月日)、具体的な研究活動、研究発表内容等の概要)
- ⑦ 留学
(派遣先機関、国名・都市名、受入身分及び研究科、受入期間(年月日)、具体的な履修状況、研究発表内容等の概要)
- ⑧ 国際研修
(プログラム名、派遣先機関、国・都市名、派遣期間(年月日)、プログラム概要、研究発表内容等の概要)
- ⑨ 国際インターンシップ
(プログラム名、派遣先機関、配属部署、国・都市名、派遣期間(年月日)、具体的な活動、プログラム内容等の概要)
- ⑩ その他(具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度等の概要)

学術活動区分 (①～⑩を記入)	④国際会議
<p>【活動種別】研究発表 【発表種別】口頭 【会議名】Grounded Theory Futures 【予定年月日】2024年9月19日、20日 (発表日:9月20日) 【会場】オンライン 【発表題目】Self-transformation processes in adult gay men: focusing on relationships in two life worlds 【発表内容概要】 ゲイ男性は、同性愛者中心の生活と異性愛者中心の生活という、2つの異なる生活世界に生きている。後者では特に成人期において、結婚などのテーマに関するスティグマが前面化する。成人期のゲイ男性のメンタルヘルスにとって、ゲイとしての属性を自己イメージに調和的に統合することが重要である。本研究では、成人期のゲイ男性が2つの生活世界における人間関係の経験に基づいて、ゲイとしての自己イメージをどのように変容させていくのか、そのプロセスを検討した。13人の成人期ゲイ男性を対象に半構造化インタビューを実施し修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ(木下、2007)を用いて分析を行った。この方法は、データの文脈化を重視しているため、ゲイ男性の独自の文脈における意味の創出を調べるのに適していると考えられた。分析のテーマと密接に関連するデータの部分に焦点を当て、概念が生成された。また、語りが示すゲイ男性にとっての意味を解釈した。カテゴリー間の関係性に基づいてカテゴリーとプロセスが描かれたことで、概念の結束性が生成された。その結果、同性愛者との関係においては【ゲイとして生きる自己が強まる】、【ゲイとして生きる自己の弱まり】というプロセスが、異性愛者との関係においては【「普通」に生きたい自己の強まり】、【ゲイとして生きる自己の強まり】、【何となくのやり過ごし】というプロセスが示された。ゲイとして生きようとする自分と「普通」に生きたい自分とのせめぎ合いの中で、ゲイとして生きることと女性と結婚して子どもを育てるなど「普通」に生きたいことの葛藤を強めるプロセスと、ゲイであることを他者から承認されることでゲイであることを自分の人生に位置づけ、正常化するプロセスという2つのプロセスが見られた。支援を行う際には、これらの結果が持つ以下の含意を意識することが重要である。第一に、成人したゲイ男性の自己変容のプロセスは多面的であり、ゲイとしての自己を強化する機会も弱める機会も、2つの生活世界のそれぞれにおいて起こりうるということである。第二に、異性愛者中心の社会でゲイであることを曖昧に処理することで、スティグマから自己を守る戦略があるということである。第三に、2つの生活世界における生き方の違いが顕在化することで、葛藤が生じうるということである。</p>	

- (注) ① 年月日は西暦で記入してください。
 ② 英語論文発表については報告する学術活動において発表又は受理されたもの。
 ③ 上記に記載しきれない場合は、ページを追加しても差し支えありません。
 ④ 複数回の学術研究活動による報告の場合、適宜本ページを追加し、2つ目以降についても必要な内容を網羅してください。

6. 学術活動による成果

※報告する学術活動について、教育分野における国際的リーダー人材の育成とその研究成果を海外に発信することを目的とした教育研究開発国際研修の趣旨に照らし、その成果を具体的に記載してください。学術活動により得られた自身の研究課題につながる成果についてもわかるように記載してください。

※本欄に書ききれない場合、ページを追加しても差し支えありません。

成人期のゲイ男性がスティグマを伴う特有の生活世界においてどのように自己を変容させるかというテーマについて、様々な国、領域の研究者に発信しそこから議論を行うことができた。マイノリティの経験の解明に資する知見を国際的に発信できたと同時に、多様なフィードバックを得ることができ、自らの研究への視野を広げることができた。例えば、どのような社会的な圧力が語りを形作っているかという質問を受け、ゲイとしての自己形成を促進したり阻害したりする社会的ディスコースについて考察し伝えることで研究の意義が深まると気づくことができた。

他に自身の研究課題につながる成果としては、本発表に取り組むことで、異性愛者中心の世界・同性愛者中心の世界という特有の文脈におけるゲイ男性の意味づけの特徴を描くことができ、ゲイ男性個人のライフストーリーを理解するための足場を固められた。具体的には、それぞれの生活世界においてゲイとしての自己を強める/弱めるプロセスの両面が見出され、さらにそれら複数の自己の間での交渉・葛藤が見出された。この知見は、スティグマから生じるゲイ男性の葛藤、あるいはスティグマに対処するゲイ男性の意味づけを理解する参照枠となる点で有用である。